

寒河江市 橋梁長寿命化修繕計画



紅さやか橋（市道 石持チェリーランド線 1994年架設）



紅秀峰橋（市道 石川西洲崎線 1994年架設）

令和3年1月



山形県 寒河江市 建設管理課

1. 寒河江市の市政紹介

【寒河江市の地勢】

寒河江市は山形県のほぼ中央部、山形盆地の西側に位置し、最上川と寒河江川が形成する扇状地に市街地が位置しています。市街地には中小規模の河川や用水路が多く流れていることから、橋長の短い橋梁や国道や県道の移管のため架設年代の古い橋梁を多く抱えています。また、大江町や西川町とは最上川や寒河江川を境界としており、ここに架かる橋梁については分割管理を行っています。



図-1 寒河江市の位置

【寒河江市の気候】

寒河江市は、盆地地形に位置するため、冬は積雪量が多いうえ、気温も低く、朝と夜の気温差が大きい気候になっています。このため、コンクリート部材においては、凍害など積雪寒冷地特有の損傷により劣化が進行しています。

【寒河江市の人口】

市の人口は、平成12年から令和元年まで比較してみると平成12年の“43,379人”から令和元年には“41,221人”と約5%減少で横ばい傾向です。

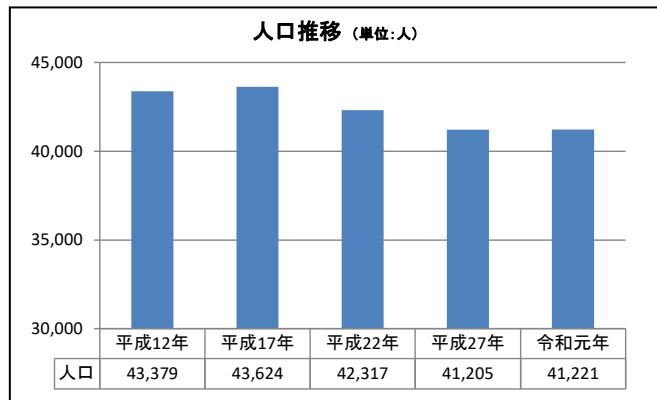
また、65歳以上の高齢者の人口は、全体の31%であり、全国や山形県と比較すると人口に占める高齢者の割合は概ね、同等程度となっています。

【寒河江市の交通】

山形市から20キロメートル圏内にあり、西村山地域の中核として発展し、市内を庄内地方と県都・山形市を結ぶ国道112号が走り、また、山形県の中央を横断し、庄内地方と宮城県とを結ぶ山形自動車道には、寒河江インターチェンジと寒河江サービスエリアスマートインターチェンジでアクセスしており、県内高速交通網の要衝となっています。

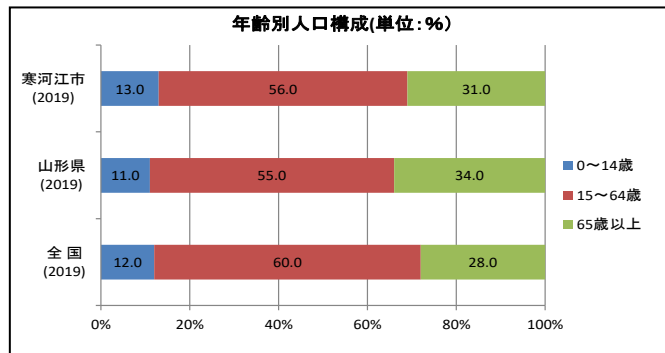
前回の計画から交通量が大きく変化するような道路の新設、商業施設の建設はありません。

表-1 寒河江市の人口推移



総務省ホームページより

表-2 全国、山形県、寒河江市の人口構成



総務省ホームページより

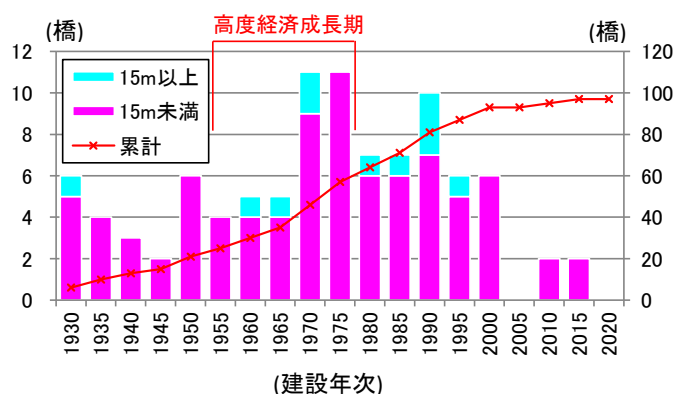
2. 長寿命化修繕計画の背景・目的

(1) 背景

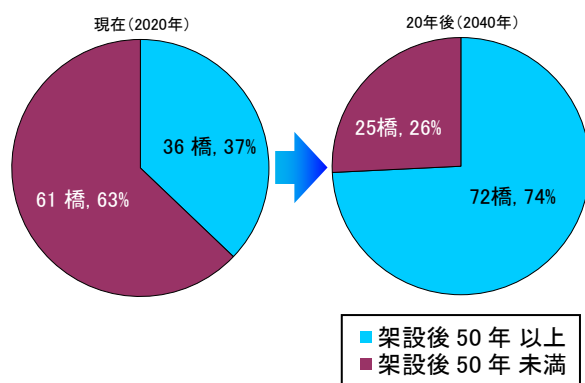
寒河江市では、令和2年現在で142橋（橋長2m以上、歩道用橋梁も含む）の道路橋を管理しています。このうち昭和30～50年（1955～1975）ころの高度経済成長期に大量に架けられた橋梁が、今後急速に高齢化が進むことで、従来の「痛んでから治す管理」を継続した場合、近い将来、維持管理コストが膨大となり、道路利用者への安全・安心なサービスを提供することがだんだん難しくなる恐れがあります。

また、市の人口は年々減少傾向にある反面、高齢者の割合は年々高くなっており、少子高齢化による社会保障費の増大を鑑みると、維持管理に関する予算の減少も想定されるため、維持管理における更なるコスト縮減が求められます。

<建設年別の橋梁数分布>



<建設後50年以上の橋梁の推移>



(架設年不明45橋除く)

(2) 目的

市民の安全・安心の確保とコスト縮減、持続可能な維持管理を目的に以下の方針で計画を策定します。

①道路ネットワークの安全性・信頼性の確保

橋梁点検や修繕・架け替えを計画的に進め、事故等につながる損傷を早期に発見するとともに、生活や一般交通に支障を及ぼさないよう橋梁を最適な状態に保ち、道路ネットワークの安全性、信頼性を確保する。

②長寿命化およびコスト縮減

これまでの対症的な対応から計画的かつ予防保全的な対応に転換することにより、橋梁の長寿命化を図るとともに、トータルとしての維持管理費用の増大を抑制する。

③維持管理の継続的な実施

計画的な維持管理を行い、補修工事の早めの実施等により、橋梁等の構造物の健全化を図るとともに、計画や事業の執行状況を定期的に評価・見直しを行い、より効率的・効果的な維持管理計画を策定し、将来における維持管理に反映させる。

(維持管理計画→実施：点検・診断・修繕→事業評価→維持管理計画更新 を継続的に実施)

3. 長寿命化修繕計画の推移と達成状況

(1) 長寿命化修繕計画更新の経緯

平成23年(2011年)に計画を策定してから9年が経過し、橋梁の維持管理を取り巻く環境も変化をしています。人口減少等に伴う歳入の減少、人件費や諸経費の上昇に伴う工事費の増大、橋梁点検要領の改訂に伴う近接目視点検の義務化や点検精度の向上に伴う新たな損傷の発生、市職員の減少に伴う日常的維持管理水準の低下の懸念があります。その変化に柔軟に対応するほか、民間活力の活用を推進するため計画の見直しを行います。

また、平成27年から平成30年までの4カ年に実施した橋梁定期点検および診断結果に基づいて修繕スケジュールの見直しを行います。

(2) 修繕の実施状況

平成23年度に策定した計画に基づいて、平成30年度までに4橋の修繕対策を実施しました。対策を講じた橋梁は、次の通りです。

表-3 対策完了橋梁一覧

対策実施年度	橋梁名
平成26年度	上ノ代陸橋、鶯沢橋
平成29年度	稲沢橋
平成30年度	羽衣橋

(3) 対象橋梁

令和2年現在の全管理橋142橋(橋長2m以上、歩道用橋梁も含む)を対象に計画を策定しました。

表-4 対象橋梁一覧

	市道1級	市道2級	その他	合計
H23全管理橋梁数(2m以上)	20橋	19橋	115橋	154橋
うち平成23年度計画策定橋梁数	6橋	1橋	22橋	29橋
R2全管理橋梁数(2m以上)	18橋	18橋	106橋	142橋
うち計画の対象橋梁数	18橋	18橋	106橋	142橋
うち令和2年度計画策定(更新)橋梁数	6橋	1橋	21橋	28橋

※橋長2m未満のため橋以外の構造物として管理する橋梁、共同管理のうち管理主体が他自治体となる橋梁については対象橋梁から除外しています。

(4) 異常時点検結果

平成27年度・28年度・29年度に発生した豪雨災害では、緊急時点検(道路パトロール)を行い橋梁の安全を確認しました。

4. 健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本方針

(1) 管理区分の設定

ライフサイクルコストを考慮し、橋梁諸元や構造形式、架橋条件を踏まえた4つの区分を設定します。

予防保全型（戦略的管理）橋梁（3橋）

跨道橋・跨線橋が対象。損傷が進行する前に補修を行うほか、第三者（人や自動車、列車）被害の恐れがある部位について「たたき点検」を行い、高い安全性を保ちます。



予防保全型橋梁（13橋）

橋長15m以上の橋梁が対象。損傷が進行する前に予防保全的な補修を行うことで、将来的なトータルコストの削減を図ります。

対症療法型橋梁（73橋）

橋長5m以上15m未満の橋梁、ボックスカルバート、歩道専用橋、冬期閉鎖路線に架かる橋梁が対象。従来の痛んでから治す維持管理を実施します。ただし、防水・止水対策を実施し、劣化抑制を行い、架け替え時期の延長を図ります。

対症療法型（計画的更新）橋梁（53橋）

橋長5m未満の小規模橋梁、損傷が著しく架替を行った方が経済的な橋梁、撤去予定がある橋梁が対象。安全確保のための必要最低限の対策を行い、損傷が進行した段階でボックスカルバートへの更新や上部工の交換、撤去を行います。

(2) 健全度の把握

【橋梁点検】

○山形県橋梁点検要領（R2）に基づいた定期点検の実施（対象：全管理橋梁）

橋梁の専門家により5年に1度、近接目視点検を実施します。

○異常時点検の実施（対象：全管理橋梁）

地震や大雨など災害が発生した際に市職員が実施します。

【橋梁診断】

○橋梁点検結果をもとに対策の必要性および、対策時期を適切に判断するため、対策区分に従い橋梁診断を専門家が実施します（山形県県土整備部による技術的助言を受けて診断を行います）。

表-5 判定区分

対策区分		内容	
I	I a	健全	構造物の機能に支障が生じておらず、措置の必要がない状態。
	I b		構造物の機能に支障が生じておらず、当面措置の必要はないが、状況に応じて措置を講ずる必要もありうる状態。
II		予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
III	III a	早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。
	III b		構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。
IV		緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態。

(3) 日常的な維持管理の実施

○橋梁を良好な状態に保ち、安全性を確保するために、道路パトロール等による状況把握を行い、路面清掃等（排水柵等の土砂の撤去）の維持管理を実施します。

○橋座部の土砂撤去は、橋梁点検時に作業ができるように、点検業者のほか関係各所と連携を図ります。

○積雪のため冬期閉鎖となる路線（冬期間通行できなくなる路線を含む）に架かる橋は、冬期閉鎖解除前にパトロールを行い、安全性を確認してから交通を開放します。

○コスト削減に繋がる改善点や新たな試みについても柔軟に対応します。

(4) 既存データの利活用

○新設や補修工事、災害調査、災害復旧工事に関するデータは保存し、今後の維持管理や対策に活用します。

○これまでの点検データや新たな点検データは、「山形県道路橋梁メンテナンス統合データベース(D BMY)」に登録して今後の橋梁の維持管理に積極的に利活用します。

(5) 地域住民との連携

○住居地付近の橋や頻繁に通行する橋の異常を見つけた場合、容易に情報提供をしてもらえるような仕組み作りについて検討を行います。

(6) 技術者（市職員、施工業者）の育成

○山形県等が主催する橋梁点検や補修に関する講習会等に参加し、橋梁の劣化損傷特性、点検技術手法、対策工法の選定などの知識や見識を深め、日常管理に役立てます。

○山形県が主催を計画している補修に関する講習会等に地元施工業者の積極的な参加を促し、補修工事の品質向上に役立てます。

5. 対象橋梁の長寿命化及び修繕・架替えに係る費用縮減に関する基本方針

○損傷が深刻化して大規模な修繕を実施する対症療法から、定期的に点検を実施して損傷が深刻化する前に修繕を実施する予防保全への転換を目指します。



図-2 対症療法から予防保全への転換のイメージ

○管理区分にかかわらず、全ての橋梁について橋面防水層の設置や伸縮装置の非排水化等、防水・止水対策を行うことにより、橋梁の長寿命化を図ります。

○高耐久性塗装（鋼部材）やコンクリート塗装、支承の金属溶射等、機能や効果を長い期間持続出来る材料を使用し、塗り替え回数を減らすことにより修繕費用の縮減を図ります。

○損傷が著しいため、補修よりも架替または構造変更を行った方が経済的な橋。また、そうすることにより、今後の維持管理費用を低減出来る型式の橋（橋長 5 m 未満の小規模橋）については、橋梁点検により損傷の状況を確認しながら順次更新の検討を行います。

○統廃合が可能な路線に架かる橋梁は、橋梁点検により損傷の状況を確認しながら、必要に応じて安全確保上最低限の対策を行い、順次更新の撤去を行います。

6. 計画の概要

(1) 対象橋梁

令和2年度の長寿命化修繕計画は、全管理橋142橋（ボックスカルバート等含む）について修繕計画（点検計画を含める）を策定しました。

ボックスカルバートも道路を構成する一部であり、常に健全性を把握する必要があるため、長寿命化修繕計画の対象としました。

(2) 点検結果より診断した管理橋梁の現在の状態

点検結果より診断した管理橋梁の状態を表に示します。平成18・21～22年度に点検を実施した橋梁では、50%が健全な状態（Ⅰ）でした。

平成27～30年度に点検を実施した橋梁では、36%が健全な状態（Ⅰ）と減少し、早めに対策が必要（Ⅱ）な橋梁は54%と多くなりました。これは、経年的に劣化が進行したことと、点検方法が「遠望目視」から「近接目視」に変わったことで精度の高い点検ができたためです。

一方、早期に対策が必要（Ⅲ）な橋梁は3橋から7橋へ増加しました。

表-6 点検結果より診断した管理橋梁の状態

点検年度		平成18・21～22年度	平成27～平成30年度
点検方法		基本は遠望目視	近接目視
点検・診断した橋梁数(前回の診断記号/今回の診断記号)		28橋	141橋
橋梁の状態	緊急に対策が必要と診断された橋梁(Ⅰ/Ⅳ)	2橋(10.7%)	0橋(0.0%)
	早期に対策が必要と診断された橋梁(Ⅱ+/Ⅲ)	3橋(11.1%)	7橋(5.0%)
	早めに対策が必要と診断された橋梁(Ⅱ/Ⅱ)	4橋(14.3%)	76橋(53.9%)
	状況により対策が必要と診断された橋梁(Ⅲ/Ⅰb)	5橋(17.9%)	8橋(5.7%)
	補修の必要が無いと診断された橋梁(OK/Ⅰa)	14橋(50.0%)	50橋(35.5%)

※平成27年度の近接目視点検では1橋は点検のみ実施

※遠望目視：双眼鏡等を使用して遠くから損傷の状態を確認する方法

※近接目視：対象物に手が届く距離まで近づき損傷の状態を確認する方法

(3) 計画内容

○補修計画

早期に対策が必要（Ⅲ）な橋梁6橋については、管理区分や損傷の範囲や種類を考慮し、補修の時期や内容を定め計画的に補修を行います。

○架替（構造変更）・撤去計画

損傷が著しく、架替（構造変更）を実施する方が補修よりも将来的な維持管理費も含めてコスト縮減に繋がる橋梁については架替（構造変更）を実施します。

路線の統廃合により撤去する方針の橋梁は2橋（うち1橋は対策区分Ⅲ）あります。

7. 長寿命化修繕計画による効果（試算）

- 寒河江市が管理する橋梁について、点検結果（平成27～30年度）を基に予算シミュレーションを行い、今後50年間の将来の維持管理費予測を行いました。
- 橋梁長寿命化修繕計画に基づく計画的な対策を実施した場合、全橋梁を従来の「傷んでから治す管理（対症療法型管理）」を継続した場合と比較して、今後50年間で、49.3億円→22.9億円（▲26.5億円）となり、約53.7%の縮減効果が見込まれます。
- 今後も継続的に橋梁点検を実施し、計画的維持管理による長寿命化により、今後50年間における架け替えとなる橋梁数を必要最小限とすることにより架け替え費用を低減し、更なるコスト縮減を図ります。

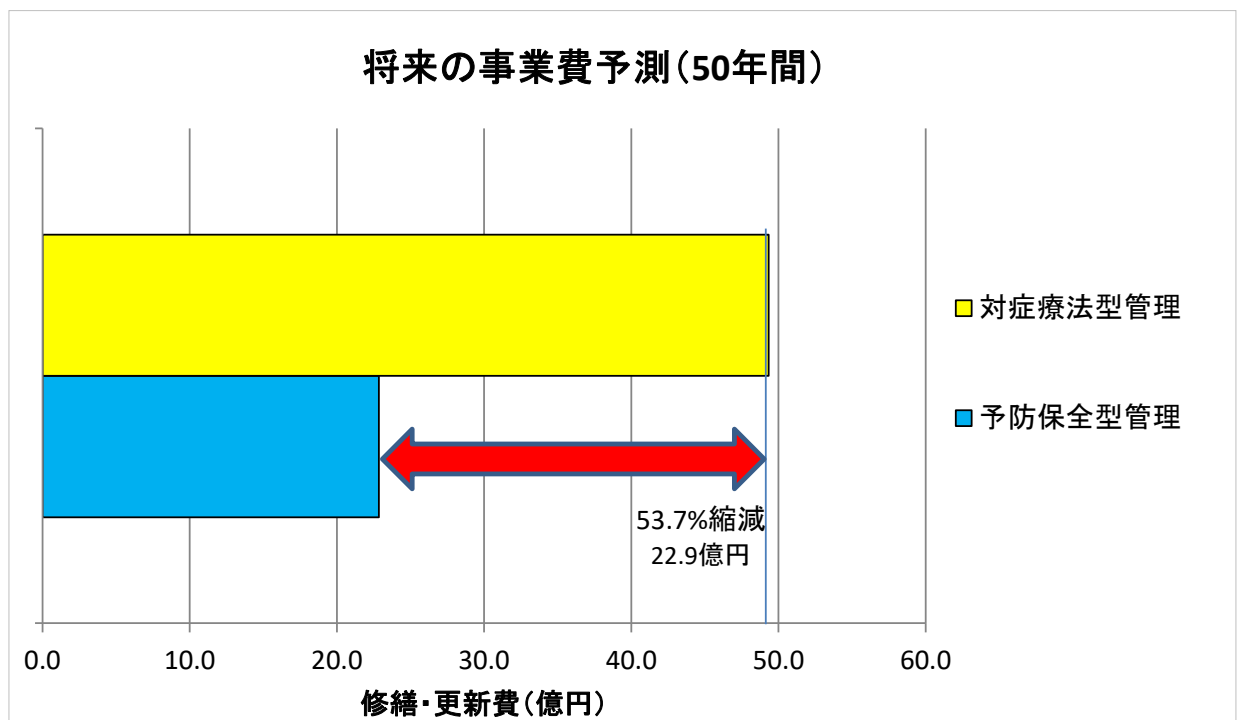


図-6 将来の事業費予測

8. 計画策定担当部署および意見聴取した学識経験者等の専門知識を有する者

(1) 計画策定担当部署

山形県 寒河江市 建設管理課 TEL 0237-86-2111

(2) 意見聴取した学識経験者等の専門知識を有する者

東北大学大学院工学研究科、インフラ・マネジメント研究センター

センター長（大学院工学研究科・教授） 久田 真

寒河江市橋梁点検結果(令和元年度末時点)

【判定区分について】

診断結果の判定区分		状態
I	I a	健全 構造物の機能に支障が生じておらず、措置の必要がない状態。
	I b	
II	予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
III	早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。
IV	緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態。

【点検結果】

橋梁名	路線名	橋長	幅員	架設年次	点検記録	
					点検実施年度	橋梁全体の判定区分
苗圃橋	幸生田代線	12.6	5.0	1974	H27(2015)	II
山王堰橋	高松駅清助新田線	3.6	5.7	1959	H29(2017)	III
丸山堰橋	高松駅清助新田線	4.4	5.7	1959	H29(2017)	III
台下橋	柴橋平塩線	4.8	6.5	1965	H29(2017)	II
最上堰6号橋	柴橋平塩線	4.2	9.8	不明	H29(2017)	I a
石持橋	市道 八鍬日田線	6.1	7.0	1984	H28(2016)	I b
高田橋	八鍬日田線	2.8	4.9	不明	H29(2017)	I a
宮内橋	宮内線	4.4	5.5	1951	H29(2017)	II
一の橋	若葉町陵南中学校線	4.6	16.0	1966	H29(2017)	II
家浦堰橋	七日町山岸線	2.1	8.0	不明	H29(2017)	II
沼川橋	市道 新宿南町線	8.0	5.5	2012	H28(2016)	II
昭和堰2号橋	箕輪南線	5.0	10.8	1983	H29(2017)	I a
昭和堰1号橋	箕輪南線	3.0	7.5	不明	H30(2018)	I a
入倉橋	市道 入倉日和田線	6.7	5.5	1986	H28(2016)	I a
最上堰1号橋	平塩中線	3.0	7.0	1986	H30(2018)	II
最上堰4号橋	平塩中線	3.2	5.4	不明	H29(2017)	II
元町幸田橋	市道 若葉町小和田線	7.3	5.0	1966	H28(2016)	II
内川橋	下河原宝線	4.5	4.6	1959	H29(2017)	I a
鈴川橋	下河原宝線	2.9	4.9	1953	H29(2017)	II
雲河原橋	市道 菊地堂雲河原線	6.2	5.5	1986	H28(2016)	I a
守川2号橋	丸内西根北町線	3.4	5.4	不明	H29(2017)	I a
北堰橋	丸内西根北町線	4.7	4.1	不明	H29(2017)	I a
実沢川橋	市道 留場葉山大円院線	8.7	6.5	1982	H28(2016)	II
南橋	皿沼日田線	2.9	5.0	不明	H29(2017)	II
新山橋	皿沼日田線	5.0	4.7	1995	H29(2017)	I a
守川1号橋	陵東中学校本町線	2.9	3.7	不明	H30(2018)	II
石川橋	西根北町下河原線	3.3	6.1	不明	H29(2017)	II
内川堰橋	西根北町下河原線	3.6	5.3	不明	H29(2017)	II
仲大橋	石川東線	3.2	3.2	1932	H29(2017)	I a
北堰1号橋	石川東線	2.4	2.2	1935	H29(2017)	II
赤田橋	赤田宝線	3.4	3.9	1977	H29(2017)	I a
高畑橋	宝日田2号線	2.8	8.9	不明	H29(2017)	II
高田1号橋	日田3号線	2.8	7.9	不明	H29(2017)	II
二ノ堰1号橋	中央2号線	3.6	6.5	1977	H29(2017)	I a
恩川橋	浦小路高屋線	2.2	1.8	1930	H30(2018)	III
沼川1号橋	浦小路高屋線	6.7	5.2	1979	H29(2017)	I a
幸田橋	市道 丸内寒河江駅線	12.1	7.0	2011	H28(2016)	I a
山岸橋	丸内本町1号線	3.1	8.5	不明	H29(2017)	I a
二ノ堰2号橋	本町2号線	2.5	3.7	不明	H30(2018)	I a
島崎橋	末広町2号線	8.7	5.0	2016	H30(2018)	I a
本楯4号橋	新山本楯堤防線	5.6	8.2	不明	H29(2017)	I a
本楯8号橋	新山本楯堤防線	2.9	3.2	1943	H30(2018)	II
本楯3号橋	本楯8号線	3.0	8.3	不明	H30(2018)	II
本楯1号橋	本楯9号線	4.2	3.4	1935	H29(2017)	II
新堰4号橋	曙町西浦線	2.6	3.6	1972	H29(2017)	I a
陵東橋	石川鹿島線	12.9	2.0	1952	H29(2017)	III
紅さやか橋	石持チェリーランド線	14.4	12.0	1994	H27(2015)	II
鯉瀬橋	越井坂栄町線	12.4	16.0	1994	H27(2015)	I b
赤田橋	市道 赤田川前線	8.0	8.5	1977	H28(2016)	II

橋梁名	路線名	橋長	幅員	架設年次	点検記録	
					点検実施年度	橋梁全体の判定区分
横井川橋	赤田川前線	4.5	7.3	不明	H29(2017)	Ⅱ
上野西橋	市道 みやま橋宮内線	6.1	4.2	1951	H28(2016)	Ⅱ
高松堰1号橋	西覚寺1号線	2.4	4.7	1947	H30(2018)	I a
西覚寺2号橋	西覚寺3号線	2.3	8.0	不明	H30(2018)	Ⅱ
仲田橋	緑町仲田線	2.2	4.0	不明	H30(2018)	I a
中川橋	市道 仲田内ノ袋線	2.7	20.0	2016	H28(2016)	I a
高松堰橋	船橋町塩水線	6.5	11.1	1961	H29(2017)	Ⅱ
塩泉橋	市道 小和田西寒河江線	6.8	18.0	2000	H28(2016)	I a
最上堰7号橋	平塩東線	2.6	4.0	1993	H29(2017)	Ⅱ
舟橋橋	六供町2号線	5.9	3.5	1935	H29(2017)	Ⅱ
二ノ堰3号橋	跨線橋南町線	3.1	5.4	不明	H29(2017)	Ⅱ
丑町橋	寒河江駅中央線	12.7	12.0	2001	H27(2015)	Ⅱ
元町橋	元町14号線	5.5	15.8	1971	H29(2017)	Ⅱ
二の橋	若葉町元町1号線	4.0	6.7	1971	H29(2017)	I a
三の橋	若葉町元町2号線	4.0	4.7	1971	H29(2017)	I a
六の橋	元町若葉町1号線	4.0	4.7	1971	H29(2017)	I a
島2号橋	島西堤防線	2.3	3.1	1930	H29(2017)	Ⅱ
島4号橋	島東1号線	2.2	4.2	不明	H29(2017)	I a
新堰3号橋	島南2号線	3.7	4.0	不明	H29(2017)	I a
川久保橋	市道 中郷7号線	9.4	3.5	1977	H28(2016)	Ⅱ
上ノ代陸橋	中郷14号線	12.7	3.0	1982	H30(2018)	Ⅱ
最上堰3号橋	平塩3号線	5.0	5.2	1985	H29(2017)	Ⅱ
平塩1号橋	平塩6号線	3.9	5.0	1983	H29(2017)	I a
最上堰5号橋	平塩8号線	3.1	5.6	1988	H29(2017)	I a
六供町2号橋	市道 跨線橋1号線	9.4	4.5	1943	H28(2016)	Ⅱ
六供町1号橋	市道 跨線橋1号線	9.4	4.5	1943	H28(2016)	Ⅱ
最上堰2号橋	平塩9号線	4.6	7.0	不明	H29(2017)	I a
仲田2号橋	鶴田2号線	12.3	6.0	2002	H27(2015)	I b
高松堰2号橋	高松小学校東線	3.3	10.5	1999	H29(2017)	Ⅱ
鶯沢橋	平塩中郷線	11.1	4.5	1935	H30(2018)	Ⅱ
最上堰橋	平塩中郷線	4.2	6.4	1969	H29(2017)	Ⅱ
丸山堰橋	平野山線	2.9	6.5	不明	H30(2018)	Ⅱ
谷沢2号橋	清助新田上谷沢線	2.6	6.5	1976	H29(2017)	Ⅱ
谷沢4号橋	清助新田上谷沢線	2.0	6.5	1974	H29(2017)	I a
塩の湯橋	塩水小和田線	10.8	5.5	1997	H27(2015)	I a
つなぎ橋	塩水小和田線	6.4	6.1	不明	H29(2017)	I a
二ツ沢橋	市道 田代畑線	9.8	3.0	1990	H28(2016)	Ⅱ
実沢川5号橋	市道 田代畑線	6.6	3.0	1977	H28(2016)	I a
板山沢橋	田代2号線	2.4	5.5	1984	H30(2018)	Ⅱ
電気橋	市道 白岩宮内線	9.3	5.0	1963	H28(2016)	Ⅱ
湯沢1号橋	上野1号線	2.5	4.0	1960	H30(2018)	I a
上野橋	市道 上野3号線	6.3	2.8	1964	H28(2016)	Ⅱ
仲道橋	新町麓線	3.5	5.0	1954	H29(2017)	Ⅱ
第三田沢橋	田沢1号線	11.4	5.0	1978	H27(2015)	I a
田沢川橋	田沢1号線	5.9	3.0	不明	H29(2017)	Ⅱ
昭和堰橋	慈恩寺西覚寺線	9.6	5.0	1956	H27(2015)	I a
西覚寺1号橋	慈恩寺西覚寺線	2.6	3.4	不明	H29(2017)	Ⅲ
日吉橋	慈恩寺西覚寺線	3.0	5.2	1947	H29(2017)	Ⅱ
滝の沢橋	箕輪1号線	2.6	5.7	1970	H29(2017)	Ⅱ
夕力へ橋	夕力へ1号線	2.8	4.1	1978	H29(2017)	I a
夕力へ新橋	夕力へ2号線	4.4	4.1	1976	H29(2017)	I a
上河原橋	上河原入倉線	2.0	6.0	不明	H30(2018)	Ⅱ
中河原3号橋	中河原1号線	2.8	3.2	1934	H30(2018)	Ⅱ
中河原4号橋	中河原1号線	2.8	6.9	不明	H29(2017)	Ⅱ
中河原2号橋	中河原2号線	3.0	3.3	不明	H30(2018)	Ⅲ
下河原1号橋	下河原2号線	3.6	7.0	不明	H29(2017)	Ⅱ
下河原2号橋	下河原3号線	3.8	5.6	不明	H29(2017)	I a
柴屋1号橋	幸生4号線	2.1	2.2	不明	H30(2018)	I a
岩沢1号橋	市道 田代畑線	8.4	5.5	1985	H28(2016)	Ⅱ
第2田沢橋	市道 下道田沢線	9.4	5.0	1951	H28(2016)	Ⅱ
第2宮内橋	宮内稲沢橋線	2.4	4.0	1932	H30(2018)	Ⅱ
電気堰橋	市道 宮内稲沢線	5.8	4.5	不明	H28(2016)	Ⅲ
入倉西橋	上河原入倉線	5.9	4.0	不明	H29(2017)	I a
羽衣橋	若葉町陵南中学校線	14.1	18.0	1994	H29(2017)	Ⅱ

橋梁名	路線名	橋長	幅員	架設年次	点検記録	
					点検実施年度	橋梁全体の判定区分
仲谷地橋	船橋町陵南中学校線	14.3	9.0	1992	H27(2015)	Ⅱ
塩路橋	市立病院北線	10.2	7.0	1997	H27(2015)	I a
米沢橋	西寒河江駅谷沢線	2.5	8.7	不明	H29(2017)	Ⅱ
内ノ袋橋	市道 市立病院南線	12.8	10.0	2002	H28(2016)	I a
小和田橋	小和田内ノ袋線	12.9	3.5	1995	H27(2015)	I a
田沢橋	市道 慈恩寺下道線	7.3	6.5	1973	H28(2016)	Ⅱ
箕輪橋	市道 日和田箕輪線	7.7	8.4	2002	H28(2016)	I a
細小路橋	駅前せせらぎ線	13.0	3.1	2001	H27(2015)	Ⅱ
亀ヶ泓橋	ほなみ団地谷地田1号線	3.4	9.7	不明	H29(2017)	I a
郷ノ目橋	米沢郷ノ目線	3.0	3.9	不明	H29(2017)	Ⅱ
米沢東橋	米沢6号線	4.4	3.7	不明	H29(2017)	Ⅱ
鷹ノ巣橋	鷹ノ巣1号線	4.2	6.0	不明	H30(2018)	Ⅱ
赤田橋歩道橋	市道 赤田川前線	8.4	1.5	不明	H28(2016)	I a
平塩橋	柴橋平塩線	120.0	4.5	1960	H27(2015)	Ⅱ
本楯橋	新山本楯堤防線	22.0	7.0	1999	H27(2015)	I b
新町橋	市道 新町麓線	18.5	2.5	1967	H28(2016)	Ⅱ
稲沢橋	宮内稲沢橋線	112.7	4.5	1932	H30(2018)	Ⅱ
柴屋橋	幸生田代線	27.0	4.5	1974	H27(2015)	—
みやま新橋	白岩団地1号線	22.5	9.0	1982	H27(2015)	I b
柴屋2号橋	市道 幸生4号線	15.1	3.0	不明	H28(2016)	Ⅱ
北橋	皿沼日田線	18.3	7.0	1973	H27(2015)	Ⅱ
夕紅橋	文化センター六供町線	14.5	13.0	1992	H27(2015)	I b
南新山橋	新山本楯線	15.9	9.0	1992	H27(2015)	I b
若神子跨線橋	市道 州崎若神子線	161.3	14.0	1994	H28(2016)	Ⅱ
紅秀峰橋	石川西洲崎線	15.2	16.1	1994	H27(2015)	I b
島橋	市道 島落衣線	40.9	18.0	1997	H28(2016)	Ⅱ